

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284044

研究課題名(和文)近代ロシア文化の「自叙」の研究：自伝的散文と回想を中心に

研究課題名(英文)Study on Autobiographical Discourse of Modern Russian Culture

## 研究代表者

中村 唯史 (Nakamura, Tadashi)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：20250962

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ロシア文化の「自叙」(自伝的小説、回想、日記、手記、書簡等)における事実と虚構のメカニズムの考察を目的としていた。対象について近代の言説を中心としたのは、「私」の立場から語る自叙がすぐれて近代的な機構であるとの判断に基づく。  
年に数回の研究会を実施し、共同研究を進めたが、その成果は特に日本ロシア文学会2016年度全国大会におけるパネル「20世紀前半のロシア文化における自叙の問題」(於北海道大学)と、2018年2月に刊行した論集『自叙の迷宮：近代ロシア文化における自伝的言説』(水声社、中村唯史・大平陽一編著、三浦清美・奈倉有里・武田昭文・梅津紀雄著)とに反映している。

研究成果の概要(英文)： This research was aimed at considering the facts and mechanisms of autobiographical prose in modern Russian culture (autobiographical novels, reminiscences, diaries, notes, letters, etc.). Based on the judgment that autobiography which is, on principle, talked from the standpoint of "I" is very modern mechanism, we focused on modern discourse as our subject.

We conducted several research sessions every year and carried out collaborative research. The results of which find their reflection in the Panel "Autobiographical discourse in Russian culture of the 19-20th centuries" at the 2016 annual congress of the Japan Association for the Study of Russian Language and Literature (at Hokkaido University) and "The Labyrinth of Autobiography: Autobiographical Discourse in Modern Russian Culture" which was published in February 2018 (Suiseisya Publishers, authors: Tadashi Nakamura, Yoichi Ohira, Kiyoharu Miura, Yuri Nagura, Akifumi Takeda, Norio Umezu).

研究分野：ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：自叙 近代 ロシア 文化 自伝的言説

### 1. 研究開始当初の背景

冷戦構造の終了とメディア環境の激変によって「近代の終わり」が言われるようになって久しい。「私」や「自我」「内面」等の、すぐれて近代的な機構が、20世紀末からどのように変容したかについては、東浩紀や鈴木謙介らによって、現代思想やメディア論の見地から、すでにある程度の考察がなされている。

だが、終焉したと言われる近代という時代において「私」がどのように形成されたのか、いかなる機能を果たしたのか、そもそも近代の「私」とは何だったかという問題の総括は、とくに文学研究や文化史の領域で、これまで十全に行われてきたとは言いがたい。この事情は日本のみならず、世界的にもとりわけソ連崩壊という激しい転形期を経験したロシアにおいても同様である。「ポストモダン」を追うに性急なあまり、近代ロシア(ソ連)で「私」がどのように形成され、再生産されてきたかの解明は、概して等閑視されてきたと言わなければならない。

### 2. 研究の目的

上記のような認識に基づいて構想された本研究は、近代的な「私」の代表的かつ凝縮的な機構として近代ロシアの「自叙」=自伝的言説を格好の対象として選択した。このジャンルにおける事実と虚構のあいだに織りなされてきた諸相を考察し、そのメカニズムを具体的・個別的に記述することが、本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

本研究の方法それ自体は、ごくオーソドックスなものであったと言わねばならない。すなわち、対象テキストを綿密に分析・考察すること、必要に応じて関連文献や時代状況をも参照すること、それらの成果を公開研究会で報告し、相互の意見交換を通じて自叙の問題を考察するための新たな枠組みの形成を試みることである。

本研究の方法に新機軸があったとすれば、それは、先行研究でそれぞれ別個に行われてきた「私」語りというナラティヴ理論の観点と、文化的・思想的な観点とを組み合わせ、両面から自叙テキストの分析を図ろうとした点である。その結果として、本研究は、特に20世紀初頭のロシアの自叙に対して、新たな光を投げかけることができたのではない。

それは、19世紀末からロシア革命にかけての激動期に書かれた多様な「自叙」が、揺れ動く歴史的・社会的・思想的な状況の中で、いかなる進路を選択し、いかなる未来を志向するかという書き手の戦略と、密接に関わっていたからである。従来は学問的に互いに別個なものとして用いられてきたナラティヴ論と史的アプローチの方法とを交差させることによって、本研究は歴史の中の個人が歴

史と切り結ぶために採った戦略と、その過程を捉えることに成功し得た。

### 4. 研究成果

本研究は、特に19世紀末～20世紀初頭の所謂「銀の時代」の自叙の分析に成果を挙げた。考察の結果、近代ロシアの自叙が、「私」を時代や社会の推移の中に捉える「歴史の中の自叙」の傾向を有していることが明らかになった。

これは、私小説・心境小説等、「歴史を遮断した自叙」の伝統を持つ近代日本文学の場合と、著しく対照的である。同じく近代化の後発国であった日本とロシアのこの彼我の差違が何に起因するのかという問題が、今後解明される必要のあることが確認された。

本研究の成果は次項目の通りであるが、とりわけ大きな成果は、学会発表8と図書1であること認識している。これらは、本プロジェクトのメンバーによる共同研究の成果であり、口頭・書面による活発な学術的対話を惹起することもできた。

なお、本研究の成果として、研究課題に関連するシンポジウムや公開講演会への協力を行ったことも挙げておきたい。協力した企画のうち、主なものは次の通りである。

1) 現代ロシアを代表する批評家アレクサンドル・エトキント氏(欧州大学フィレンツェ校)の公開講義「歪んだ喪:ソ連雪どけ期の文学と映画におけるスターリズム」(2018年2月20日、於京都大学)

2) 日本ロシア文学学会全国大会プレシンポジウム「二葉亭四迷再考 人物、文体、可能性」(2017年10月13日、於上智大学)

3) アレクサンドル・アレクサンドロフ氏(ロシア科学アカデミー・ロシア文学研究所)の公開講義「社会学と文学:20世紀初頭のロシア・ジャーナリズムにおける新しい方法とその受容」(2017年1月12日、於京都大学)

4) ヴァレリー・ヴィューギン氏(ロシア科学アカデミー・ロシア文学研究所)の公開講義「国内戦期はどんな天気?社会主義リアリズムにおける隠喩としての気候」(2016年12月1日、於京都大学)

5) 批評家イヴァン・エサウロフ氏(ゴーリキー文学大学)の公開講義「キリスト教の伝統とロシア文学におけるその変容」(2016年3月13日、於京都大学) 他。

また、京都大学人文学研究所アカデミー2017連続レクチャー上映会「ロシア革命百年記念映画祭:映像に刻まれたロシア革命」(2017年11月23-26日、於京都文化博物館)では、本研究代表者の中村、同分担者の大平、八木が講演・司会・パネラー等を務め、上映会の運営にも少なからず関与した。この上映会は、予期に反して連日立ち見が出るなど、盛況を極めた。関西地域におけるロシア・ソ連文化への関心の活性化の一端を担い得たのではないだろうかと思ふもの

である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 31 件)

1. 野中進、言語表現はいかに形を得て、「慰めるか：アンドレイ・プラトーフの手紙の一節によせて、河正一ほか(編)言語をめぐるX章：言語を考える、言語を教える、言語で考える(埼玉大学教養学部リベラルアーツ叢書) 査読有、別冊 2、2017 年、455-468 頁

2. 梅津紀雄、セルゲイ・プロコフィエフ(1891-1953) 大田黒元雄との交遊、長塚英雄責任編集『続・日露異色の群像 30 文化・相互理解に尽くした人々』、生活ジャーナル、査読無、2017 年、302-322 頁

3 - 4. 中村唯史、ワシーリー・グロスマン小論(前篇「身体・機械・自然 あるいは兵士に射す光」、後篇「全一的な世界の終わりとその後『アヴェル』を読む」) みすず(みすず書房) 査読無、59 巻 6 号・7 号、2017 年、15-25 頁、8-19 頁

5. 中村唯史、第 66 回全国大会・パネル「20 世紀前半のロシア文化における自叙の問題」報告、ロシア語ロシア文学研究、査読有、49 号、2017 年、270 - 277 頁  
[http://yaar.jpn.org/robun/RLL-49\\_20171004.pdf](http://yaar.jpn.org/robun/RLL-49_20171004.pdf)

6. 中村唯史、革命の影の下に：芥川龍之介とプロレタリア文学(ロシア語) T. プレスラヴェツ(編)『日本と現代世界：文学的連関とタイポロジー』極東連邦大学出版局、2017 年、査読無、166-179 頁

7. 三浦清美、時代を映す鏡としての寓話作品『ステファニトとイフニラト』：歴史と文学のあいだ、日本 18 世紀ロシア研究年報、査読有、14 号、2017 年、3-15 頁

8. 三浦清美、中世ロシア文学図書館(XII) 中世ロシアの説教 トゥーロフのキリルの説教、電気通信大学紀要、29 巻 1 号、査読有、1-26 頁、2017 年  
[https://uec.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=8583&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://uec.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=8583&item_no=1&page_id=13&block_id=21)

9. 中村唯史、ヤコブソンの影：ソ連記号学の系譜における「実体 - 言語 - 体系」の問題 試論、SLAVISTIKA (東京大学大学院人文社会

系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室年報) 査読有、32 号、2017 年、19-40 頁  
[https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=48918&item\\_no=1&page\\_id=28&block\\_id=31](https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=48918&item_no=1&page_id=28&block_id=31)

10. 中村唯史、ロシア・アヴァンギャルド：その理想と変移、浅岡善治、中嶋毅(編)『ロシア革命とソ連の世紀 4：人間と文化の革新』、岩波書店、ISBN:9784000282697、査読有、2017 年、95-121 頁

11. 梅津紀雄、芸術音楽から見たソ連：雪どけ期のシヨスタコーヴィチを中心に、浅岡善治・中嶋毅(編)『ロシア革命とソ連の世紀 4：人間と文化の革新』、岩波書店、ISBN:9784000282697、査読有、2017 年、205 - 231 頁

12. 武田昭文(A. アンケーエフと共著) ロシアの作家 V. J. エロシェンコ(ロシア語) 子どもの読書(ロシア語) 査読有、11 号、2017 年、68-92 頁

13. 奈倉有里、アレクサンドル・ブロークの伝記研究における問題点：自伝を中心に、SLAVISTIKA (東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室年報) 査読有、32 号、2017 年、139-165 頁  
[https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=48924&item\\_no=1&page\\_id=28&block\\_id=31](https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=48924&item_no=1&page_id=28&block_id=31)

14. 野中進、戦争と比喻：V. グロスマンのメトニミー的原理(ロシア語)、刻まれた勝利：主形象、概念、イデオロギー素 第二次世界大戦終戦 70 周年記念学会資料集(サンクト・ペテルブルグ、ヴォロネシ)、査読有、2016 年、41-44 頁

15. 中村唯史、『源氏物語』における作者と作中人物：源氏研究へのバフチンの方法の導入をめくって、『新時代への源氏学 9：架橋する<文学>理論』、竹林舎、査読有、2016 年、ISBN：978-4-902084-39-9、174-197 頁

16. 大平陽一、Ondrej Sladek, Jan Mukarovsky: zivot a dilo 書評、ロシア語ロシア文学研究、査読有、48 号、2016 年、230-246 頁  
[http://yaar.jpn.org/robun/RLL\\_No48](http://yaar.jpn.org/robun/RLL_No48)

17. 中村唯史、二項対立を遠く離れて：『あの日の声を探して』解説、小長谷有紀、鈴木紀、旦匡子(共編)『ワールド・シネマ・スタ

ディーズ：世界の「いま」を映画から考えよう』、勉誠出版、ISBN:978-4585270300、査読無、2016年、279 - 286 頁

18. 八木君人、ロシア・フォルマリズム：夏目漱石『夢十夜』「第一夜」、松本和也(編)『テキスト分析入門：小説を分析的に読むための実践ガイド』、ひつじ書房、ISBN：978-4894768369、査読無、2016年、14-27 頁

19. 三浦清美、ロモノソフの神、デルジャーヴィンの神、金沢美知子編『18世紀ロシア文学の諸相』水声社、ISBN:978-4801001558、査読有、2016年、21-50 頁

20. 中村唯史、ソ連期の文学における有機的統一としての世界の夢(ロシア語)、Nonaka Susumu and others. (eds.) "Far East, Close Russia. The Evolution of Russian Culture -- A View from East Asia" (Serbia)、査読有、2015年、119-134 頁

21. 大平陽一、第一波亡命ロシア人の回想と世代の問題、天理大学学報、査読有、67巻1号、2015年、19-33 頁

<http://opac.tenri-u.ac.jp/opac/repository/metadata/3702/>

22. 奈倉有里、日本におけるA・ブロークの翻訳史(ロシア語)、ロシア文学の外国における受容(ロシア語論文集)、査読有、5巻、2015年、51-58 頁

他 9 件

[学会発表](計 18 件)

1. 奈倉有里、Об истории переводов стихов А. Блока в Японии. Блок в переводе Киёси Фурукава、国際研究会「ブロッコシエ чтения」、2017年11月27日、於ブロークの家博物館

2. 中村唯史、ロシア・アヴァンギャルドと社会主義リアリズムのあいだ、ロシア革命百周年記念映画祭「映像に刻まれたロシア革命」、招待講演、2017年11月26日、於京都文化博物館

3. 大平陽一、映画《十月》における映像言語の試みについて、ロシア革命百周年記念映画祭「映像に刻まれたロシア革命」、招待講演、2017年11月25日、於京都文化博物館

4. 八木君人、映画の事実：革命十周年記念の映画、ロシア革命百周年記念映画祭「映像に刻まれたロシア革命」、招待講演、2017年11月25日、於京都文化博物館

5. 奈倉有里、О некоторых аспектах перевода стихов на японский, в начале XX века、国際セミナー「芸術的言説の展望における削除されたテキスト」、2017年11月23日、於ロシア科学アカデミーロシア文学研究所

6. 中村唯史、О взгляде на мир как "целостность" в русской литературе советского периода、国際シンポジウム「Русскоязычная литература в процессе мировой истории」、招待講演、2017年10月18日、於上海師範大学

7. 梅津紀雄、芸術音楽から見たソ連：雪どけ期のショスタコーヴィチを中心に、ミニ・シンポジウム「ファシズム、共産主義と音楽」、2017年7月30日、招待講演、於明治学院大学白金キャンパス、

8. 中村唯史、奈倉有里、大平陽一、武田昭文、梅津紀雄、八木君人、パネル「20世紀前半のロシア文化における自叙の問題」、日本ロシア文学会 2016年度全国大会、2016年10月23日、於北海道大学

9. 中村唯史、Автор и герой в "Повести о Гэндзи": о применении метода Бахтина к исследованию "Гэндзи" в Японии、国際シンポジウム «Ex Orient Lux: Изменение мировоззренческой парадигмы от европоцентризма к универсализму」、招待講演、2016年6月21日、於ロシア=アルメニア大学人文学研究所

10. 福岡加容、ロシアにおけるジャポニズム(ロシア語)、The IX ICCEES World Congress、2015年8月6日、於神田外語大学

11. 中村唯史、О сборнике статей «Поэтика кино» (1927) в идейном контексте его времени、The IX ICCEES World Congress、2015年8月6日、於神田外語大学

12. 中村唯史、Азия Майтрейя и Ленина: о картинах Николая Рериха、EACSES 2014: Russia and Eurasia in the Changing World Order、2014年6月1日、於韓国外語大学

他 6 件

[図書](計 4 件)

1. 中村唯史、大平陽一編『自叙の迷宮：近代ロシア文化における自伝的言説』、水声社、2018年、総288頁、ISBN:978-4-8010-321-7 (中村唯史「序：自叙についての迷宮的前書

き」、三浦清美「宗教説話に滲出する自叙：ポリカルプと逸脱の精神」、奈倉有里「アレクサンドル・ブローク批評における<同語反復>」、大平陽一「亡命ロシアの子どもたちの自叙：学童の回想と文学」、武田昭文「ヴァシーリー・トラヴニコフとは誰か？：ホダセーヴィチにおける自叙と文学史の交点」、梅津紀雄「伝記史料とイメージ操作：二十世紀ロシアの作曲家の自叙」、中村唯史「自叙は過去を回復するか：オリガ・ベルゴリツ『昼の星』考」、中村唯史「後書きに代えて：自叙と歴史叙述のあいだ」)

2. 赤尾光春・中村唯史訳『トレ布林カの地獄：ワシリー・グロスマン前期作品集』、みすず書房、査読無、2017年、ISBN: 978-4-622-08585-0、翻訳担当: 87 - 201、241 - 336 頁、及び解説論文「希望と幻滅 - 歴史を生きた人びとを描く」337 - 351 頁

3. ウラジーミル・ナボコフ『マーシェンカ / キング、クイーン、ジャック』、新潮社、2017年、ISBN: 978-4105056063、査読無、奈倉有里担当 7 - 150、432 - 450 頁（「マーシェンカ」翻訳および解説）

4. 加賀乙彦（編）『ポケットマスターピース 04：トルストイ』、集英社文庫ヘリテリシリーズ、査読無、2016年、ISBN: 978-4-08-761037-6、中村唯史担当 545 - 761、800 - 805 頁（『ハジ・ムラート』『舞踏会の後で』翻訳および解説）

#### 〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

#### 〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

中村唯史 (NAKAMURA, Tadashi)  
京都大学・文学研究科・教授  
研究者番号：20250962

##### (2) 研究分担者

大平陽一 (OOHIRA, Youichi)  
天理大学・国際学部・教授  
研究者番号：20169056

三浦清美 (MIURA, Kiyoharu)  
電気通信大学・情報理工学域・教授  
研究者番号：20272750

梅津紀雄 (UMETSU, Norio)  
工学院大学・工学部・講師  
研究者番号：20323462

武田昭文 (TAKEDA, Akifumi)  
富山大学・人文学部・准教授  
研究者番号：70303203

八木君人 (YAGI, Naoto)  
早稲田大学・文学学術院・講師  
研究者番号：50453999

野中進 (NONAKA, Susumu)  
埼玉大学・教養学部・教授  
研究者番号：60301090

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

福間加容 (FUKUMA, Kayo)  
大分市歴史資料館・嘱託

奈倉有里 (NAGURA, Yuri)  
早稲田大学ほか・講師